

発表テーマ 【若年性認知症との戦い、K様の笑顔を取り戻すために…】

事業所所在地：愛知県碧南市

法人名：社会福祉法人 百陽会

事業所名：グループホーム アルクオーレ碧南

発表者：介護職員 萩 菜々望 介護主任 野々山 亮

【背景】

平成 28 年 11 月に入所された K 様、入所時から無表情で自発的な発語は殆ど無く日中はフロア内を常に徘徊し暴言や入浴拒否も多く、夜間は不眠、放尿や失禁が続くといった日々を送られていました。

まだ 60 歳と若く進行も早いため、せめて K 様の笑顔だけでも取り戻してもらおうことができたらの思いから奥様のご協力の下、このテーマに取り組みました。

【目的】

奥様と相談のうえ①自分の言葉で意思を伝えられるようになる。②日常的な挨拶ができるようになる。

③自分の名前が書けるようになる。④笑顔など表情を取り戻す。の四つに決め、取り組むことにしました。

【対象者】

K 様 61 歳（平成 30 年 11 月現在）要介護 2 若年性アルツハイマー型認知症、短期記憶障害 ADL ほぼ自立（声掛け、見守り必要）

趣味：ウォーキング、釣り、農作業、野球観戦

【方法】

① 奥様とアセスメントの実施 ②若年性認知症についてスタッフ勉強会 ③ケアプランの見直し

④ケアプランに沿った取り組み（3 ヶ月） ⑤再度ケアプランの見直し

⑥ケアプランに沿った取り組み（3 ヶ月）⑦評価・反省

『取り組みの様子』

★スタッフ勉強会では、・若年性認知症とは、18 歳から 64 歳の間で発症する認知症を総じて、若年性認知症と呼んでいる。「自分はまだ若い」という自覚や病院で診察を受けても、うつ病や更年期障害、統合失調症に間違われるケースが多く 65 歳以上になってから若年性認知症だったという診断を下されることも少なくない。・認知症との違い、診断を受けたのが 65 歳未満なのか 65 歳以上なのかの違いで、症状や対応方法、注意点はほぼ同じだが、年齢が若いほど脳の萎縮が早いと言われており、例えばアルツハイマーの場合、進行のスピードはアルツハイマー型より若年性アルツハイマー型の方が速いため寿命が短くなってしまうと言われている。しかし、医師の早期介入や適切なケアにより症状を改善させたり進行を遅らせたりすることができる。などを学びました。

「若年性アルツハイマー型認知症のことは知っていたがご本人の葛藤や周りの理解や配慮が大事だと思いました。」スタッフ談

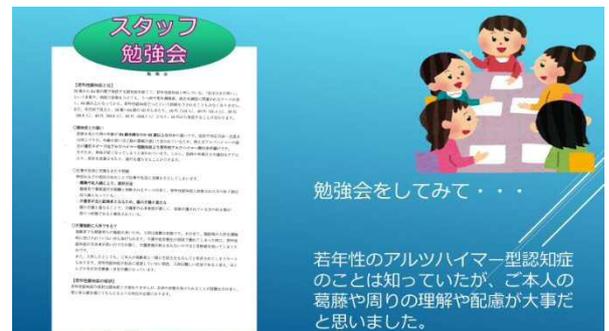
『ケアプランの見直し』

入所時のケアプランの見直しを行いました。

★入所時の主なサービス内容は？

① こまめに声をかけ気遣いを示す。②適時にトイレの声掛けをする。

② できるお手伝いをお願いする。④散歩や買い物、ドライブ、スポーツなどの好きなことを行う。



★見直し後の主なサービス内容は？

- ①廊下のモップ掛けや食器拭きをお願いします。
- ②毎日花壇の手入れをする。
- ③一緒に作品作りや軽作業を行う。
- ④毎日レクで運動をする。
- ⑤散歩や買い物に誘う。
- ⑥定期的にトイレの声掛け誘導をする。
- ⑦こまめに話しかけ信頼関係を築く。
- ⑧更衣等は近くで見守る。

というものに変更し皆で取り組みました。

『プランに沿ったサービスの取り組み。(3ヶ月)』



ほぼ毎日時間を見つけ周辺を散歩しました、ウォーキングが趣味ということもあり積極的に出かけられました。

モップ掛けの様子です、お願いすると「いいよ」と快く引き受けてくださいますが声を掛けないと同じ場所をずっととされていたり途中でモップを投げ出してしまっていました。



施設行事には積極的に参加されます、この写真は運動会のパン食い競争に参加されたときです、様々な施設行事に積極的に参加はされますがいつも表情はあまり変わりません。

次の日の食材をスーパーへ買い物に行った時の写真です、いつもカート

を押してくださいます、重いものを持ってくださることもあります。買い物は好きなようで他の方を誘った時も行く気になって上着を着てくることもありました。



表情の変化は？

なかなか笑顔は見られない日々・・・

★表情の変化は…

3ヶ月間取り組んでみたところなかなか笑顔を引き出すことはできず…

『再度ケアプランの見直し』見直しを行う前に奥様にご要望をお尋ねし、それを踏まえて再度プランを作り取り組みました。

★2回目のケアプランの内容は？

- ①基本的な挨拶ができるように支援する。
 - ②世間話や冗談を交え会話する。
 - ③簡単な計算や名前などの練習をする。
 - ④外で好きなスポーツをする。
 - ⑤畑や花壇のお世話をする。
 - ⑥近所へ買い物や散歩へ行く。
 - ⑦できるお手伝いをお願いします。
 - ⑧ラジコン、麻雀などの好きなことを行う。
- の主に八つです。

『二回目のプランに沿ったサービスの取り組み。(3ヶ月)』



蚊に刺されながらも夕方に毎日畑の水やりを行ってくれました。

毎晩、お手本を見ながら名前を書く練習を行いました。苗字は書くことができたのですが、名前は漢字のへんづくりが逆になったり書けないことが多かったです、同時に簡単な計算問題も行いましたが本人のストレスになっていると感じ途中で中止しました。



毎月作っているカレンダー作りです、声かけ見守りがないと色々な所へ貼ってしまうことがある為他の利用者様と職員と一緒に行いました。



体を動かすことが好きなので外でキャッチボールを行いました運動能力が高く上手に相手に返されていました



洗い物のお手伝いです、ご自宅でもよくやられていたようで手際が良かったです。

変わってきた表情の変化



★少しずつ変わってきた表情の変化…

挫折しそうになりながらも関わりを増やしていった結果、様々な場面で表情の変化が見られました、畑での野菜の収穫や施設行事に参加されたとき、スタッフやスタッフの子供と直接関わったときなどに表情の変化が多く見られました。小さな変化をスタッフ同士で共有することでスタッフのやる気にもつながっていきました。

【結果】目に見える著しい表情の変化などは多くは見られませんでした、取り組みを続けていくうちに少しずつ職員の冗談に笑ったり、声掛けに対してご自分の言葉で返事が返ってきたり、暴言や入浴拒否、失禁、放尿が全くなくなりました。その結果医師からの向精神薬の処方も減っていきました。

【考察】スタッフが関わりを増やしたことでK様との信頼関係を築くことに繋がりそこから徐々に変化が見られるようになった、畑仕事や散歩、買い物、運動には特に意欲が見られ身体を動かすことが好きだと気付きました。言葉の理解はされておりスタッフの冗談に「80点」と点数を付けたり「馬鹿だ」と笑う場面も見られ反応が良い事が分かりました。

【まとめ】今まで若年性認知症の対応経験が無かったスタッフも多く、貴重な経験になったと思います。今回僅かながらもK様の笑顔を引き出すことに成功し、今後どのようなアプローチをしたら表情に変化がうまれるのかを知ることができました。今後もご家族様の協力の下より多くの笑顔を引き出せるようケアに努めていきたいと思っています。